

世田谷散歩・上町界限（序の口）

― 烏山川緑道を歩く ―

浜田 道雄

コロナ・パンデミックが猛威を奮ったこの二年余り、「外出自粛」で遠出などはまったくできなかった。といって家に閉じこもってばかりいては、いざ寝たきり老人になるのは必定と、その心配から「散歩だ、運動だ」と毎日のように自宅の近辺を歩きまわった。

さいわい世田谷は都内でも新開地だから、武蔵野の自然も多く残っており、歩いていても楽しいところが多い。そんななかでこのところ気に入っているのが、東急世田谷線沿線の上町界限の散歩だ。にぎやかな町並みがつづく街で、世田谷区役所も近い行政の中心地でもある。

上町は昔から世田谷地方の中心だった。江戸時代ここが彦根藩領だったところにはこの地を差配する代官屋敷が置かれていたし、それ以前の戦国時代には世田谷郷五七か村を領した吉良氏の居城があった。

そうした歴史があるからだろう、創建が一五世紀に遡る古刹も多点多点在していて、自然だけでなく史跡などにも訪ねてみるべきものは多い。寺巡りが好きな私にとっては格好の散歩場所なのだ。

私が住んでいる馬事公苑近くから上町に行くには、なかなかいい散歩路がある。「烏山川緑道」である。

家から北に向かい、小田急線の高架をくぐってしばらく行くと、この緑の遊歩道に出会う。北烏山辺りを水源とし、やがて北沢川と合流して目黒川となったかつての烏山川の名残である。都市化が進んで下水化した川を暗渠にして、その上を歩行者専用の路にしたのだ。上町へはこの緑道を川筋にしたがって下る。

川岸の樹々は昔のままに残されているので、路筋は心地よい緑陰がつづく。春は満開の桜並木となり、夏は涼しい木陰を作る。そして秋には木の葉が色づく。季節ごとの楽しみが多い散歩路である。

路はかつての川の流れそのままに、右に左にゆるくうねりながら東へ伸びている。散歩はそのときの体調と気分にあわせて、のんびりと樹々の下を縫いながら、植えられた花々を楽しみながら歩こう。

緑道はやがて鳴友学園の先で城山通りを横切り、その先の住宅地の中へと進む。そこは「万葉の路」と呼ばれて、古歌にゆかりの草花が植えられているのだが、今は冬。寒風のなかでは花はなにもない。

それで、今日はここで緑道と別れて城山通りを左に曲がる。すると、そこはもう上町の鎮守の杜、世田谷八幡宮だ。八幡太郎義家ゆかりの神社であり、江戸時代には奉納相撲が「江戸郊外三大相撲」として有名だった。深い木立の奥にどっしりとした拝殿の姿が見え隠れし、境内には子供の遊ぶ声が響く。

そんな境内を散策して奉納相撲ゆかりの土俵や力石を眺めるのもいいが、宮の横を走る世田谷線の「宮の坂踏切」を渡れば「豪徳寺」はもう眼の前だ。今日は寺参りからとしようか。